

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

# The Function of Definite or Indefinite of Noun Phrase in Chinese Language A Contrastive Study with Japanese Language

|                              |   |
|------------------------------|---|
| 著者                           | 王 亜新  |
| 著者別名                         | WANG Qing   |
| journal or publication title | The Bulletin of the Institute of Human Sciences , Toyo University                   |
| number                       | 19  |
| page range                   | 85-99   |
| year                         | 2017-03   |
| URL                          | <a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00008738/">http://id.nii.ac.jp/1060/00008738/</a> |

# 中国語名詞句の「定／不定」について —日本語との対照を兼ねて—

王 亜新\*

## 0. はじめに

中国語の名詞句は「冠詞 (article)」というカテゴリーを持たないので、「定／不定」は名詞句の意味機能に基づいて判断されることが多い。名詞句の「定／不定」について、すでに多くの先行研究が見られるが、本稿はいくつか主要な先行研究を検証しながら、もう少し考察を加えたいと思う。

本稿は、主として中国語の名詞句について検討するが、参照として日本語名詞句についても少し触れてみる。

## 1. 「実体」とは

陳平(1987)は中国語名詞句の意味機能について詳しく分析している。その中で、名詞句を“実体 (entity)”を表すか否かによって“有指”と“无指”と区別し、さらに“有指”については、聞き手にとって名詞句の指示対象が特定の事物へ同定 (identify) できるものを“定指”、同定できないものを“不定指”と分けている。陳平の“定指／不定指”は、英語の「定 (definite)／不定 (indefinite)」と必ずしも一致しないが、重なっている部分が多いのが事実である。

- (1) 那天, 一辆草绿色的解放牌卡车悄无声息地滑至淮海别墅顾而已家门.....车停稳后, 只见跳下一群身着去掉了领章、帽徽的空军服装的人。他们一进屋, 就把守好每扇门窗, 拉好窗帘。

(陳平 1987 : 82)

上の例において曲線部は“不定指”で、二重下線部は“定指”である。それに従えば、陳平の“定指”は、おおむね次の3種類に分けられる。

- (2) a. 固有名詞：淮海别墅顾而已家  
b. 先行詞照応名詞句 (指示詞や代名詞を含む)：车、屋、他们  
c. 既定対象 (淮海别墅顾而已家) に関連する要素：门窗、窗帘

言い換えれば、いわゆる“定指”の判定は、1) 百科事典的知識、2) 先行文脈、3) 発話状況、

\* 人間科学総合研究所研究員・東洋大学社会学部

4) 既定対象との関連性、などに基づいて行われていると考えられる。

陳平の提示した“定指／不定指”及び“实体”の定義について、後続研究からいくつか疑問が呈されているが、本稿ではそれらを逐一検証する余裕がないので、とりあえず陳平の研究をベースにして分析を進めたいと思う。

名詞句の機能については、英語をはじめ他の言語でも広く研究されている。中で、Fauconnier (1985) は「メンタル・スペース (Mental Spaces)」理論を提唱し、意味論と語用論の立場から名詞句の機能を解析している。Fauconnier は名詞句を「役割 (role)」と「値 (value)」という二つの機能に分けて構文における働きを検証している。坂原茂 (1990: 31) の解説によれば、「役割とは、名詞句の意味・記述内容によって与えられた一種の関数で、時間、状況、コンテキストなどの変化に応じ、記述を満足する個体の集合から適当な値を選択する」。また「名詞句の第一義的な意味は役割であるが、役割を通してある値を指せる。そのため、名詞句の解釈がこのどちらかであるかが曖昧になることがある」とされている。

役割とは、名詞句の内包と外延を統合した概念で、一種の「概念主体」か「属性主体」にあたり、それに対して値は、役割を担う実体（個体）にあたる。名詞句（の指示対象）は、この二つの機能を同時に備えた場合もあるが、分離させた場合もある。そのため、名詞句が置かれた文脈ではそのどちらの機能を果たしているかを見分けることが重要で、それによって名詞句自身の働きだけでなく、名詞句が置かれる構文の意味関係を見分けることにもつながる。

陳平が提示した“实体”は役割と値を区分していないので、“实体”に関する判断には曖昧さが残っている。例えば、次の下線部はふつう“实体”を表す名詞句と考えられているが、役割と値の側面からは、もっと異なった分析が可能である。

(3) 1981 年 3 月 30 日下午，美国总统里根在华盛顿劳联-产联建筑工会的集会上讲演后，从希尔顿饭店走出来，……就在这一刹那，记者群中一个身穿棕褐色雨衣的金发青年，蓦地拔出左轮手枪，对着里根“砰、砰”连射两枪。……开枪者是 25 岁的约翰·欣克利。(陳平 1987: 83)

まず“美国总统”と“里根”は従来の研究では同位語で同じ指示対象を表すとされているが、名詞句の働きから見れば明らかに異なっている。また“一个身穿棕褐色雨衣的金发青年”は不定名詞句でありながら特定個体を表しているが、“开枪者”は定名詞句でありながら特定個体よりも役割関数を表しているとも考えられる。

Fauconnier (1985) などの研究で明らかになったように、名詞句は置かれた文脈によってその意味機能が異なってくることがある。例えば“美国总统”の場合、

(4) a. 美国总统每四年选一次。

／アメリカ大統領は 4 年ごとに選ばれる。

b. 过去 200 年间，美国总统多次受到枪击。

／過去 200 年間、アメリカ大統領は何度も銃撃された。

c. 1981 年，美国总统受到了枪击。

／1981 年、アメリカ大統領は銃撃された。

d. 1981 年、美国总统再次受到了枪击。

／1981 年、アメリカ大統領は再び銃撃された。

e. 1981 年、美国总统是里根。

／1981 年、アメリカ大統領はレーガンだった。

(4a) の“美国总统”は抽象的な概念主体として、類名詞と同じく値（個体）を内包しない「類」を表し、(4b) は値を内包する個体集合概念で通時的には複数個体を表している。(4c) の“美国总统”は特定された時空間要素を伴った個体であり、通常の文脈では役割と値を統合した概念主体（この場合は事象主体）を表すが、話し手と聞き手の共有知識によって値と同定された場合は、値にあたる“里根”の代名詞として働く場合もある。それに対して (4d) では「再度銃撃された」のは“里根”ではなく、役割としての個体“美国总统”である。一方、(4e) の“美国总统”は値と分離した関数概念で、値への同定を求めている。

“美国总统”は普通の固有名詞と異なり、類名詞と固有名詞をまたがった性格を持っている。その内包構成素も、共時的に単一であるが通時的には複数になるので、文脈に基づいて判断する必要がある。例えば、上の例では (4a) (4b) では類名詞的、(4c) (4d) (4e) では固有名詞的である。

Carlson (1977) は、英語の類名詞複数形は文脈条件に応じて、1) 種、2) 個体の集合、3) 複数の個体、を表すと指摘している。中国語の名詞句も基本的に類似した働きをしているが、「数」というカテゴリーを持たないので、裸名詞の形で用いられることが多い。中国語の裸名詞は、文脈に応じて次のような対象を表している。

- (5) a. 内部構成素（個体）を無視した類
- b. 内部構成素を内包した個体集合
- c. (単一または複数) 個体
- d. 値（個体）と分離した役割関数

(5a) と (5b) は通常「総称名詞句」として、役割と値を統合した概念主体（または属性主体）を表し、(5c) は値を伴った特定個体、(5d) は値と分離した役割関数である。(5a) と (5b) の違いについて、吉田光演 (2004: 2) は次のように指摘している。

- (6) a. 恐竜は絶滅した。 Extinct (Dinosaur<sup>x</sup>)
- b. ライオンは危険だ。 Gen<sub>x</sub> (Lion(x)) (Dangerous(x))

(6a) の「恐竜」は種を一つのまとまりとして指示し、「絶滅した」は種としての属性を表している。それに対して、(6b) の「危険」は個体にも適用できる述語で「ライオン」という性質を満たす動物の一般特性を述べている（一般特性叙述文）。つまり、「ライオンである集合に属する個体のほとんどは（例えば 6 割以上）危険であるような個体の集合に属する」という意味を表す、と指摘している。

言い換えれば、(6b) の「危険」は、類としての属性と、内部構成素の個体としての属性の両方を表すが、その属性において個体間に差がある。中心的メンバーがその属性を強く持っているものの、

周辺のメンバーはその属性から外れる場合もある。それに対して、(6a)の「絶滅」は個体間の差がなく類全体の属性しか表さない、というような違いが見られる。

(5) の分類は基本的に類名詞に適用されるが、固有名詞に通用する部分もある。例えば“里根(レーガン)”という固有名詞は、

- (7) a. 役割と値を統合した概念主体: “里根” という名前を持つ人  
 b. 値としての個体 : “里根” その人  
 c. 値と分離した役割関数 : “里根” という名前の指示対象

(7a) は、金水敏・田窪行則 (2004) が指摘したように、例えば、新規情報として導入された場合によく用いられる。つまり、「里根」という属性を持つ主体」として働いている。それに対して、(7b) は話し手と聞き手の共有知識によって個体への同定が成立した概念で、「里根」は「代名詞」的な働きをしている。(7c) は値 (個体) と分離した関数概念である。

一方、(4)の“美国总统”は、固有名詞と類名詞をまたがっている名詞句なので、文脈条件に応じて、1)概念主体(か属性主体)、2)(通時的な)個体集合、3)(共時的)な単一個体、4)役割関数などのように、より類名詞的な機能を持っている。

中国語の裸名詞（一般名詞）は、日本語の場合と類似して、文脈条件によっては類と個のいずれも表すことが可能である。「個」の場合は単一と複数の両方が含まれるが、単一を表す場合は“一個 NP”という形がよく用いられる。

## 2. 名詞句の「定／不定」

## 2.1. 「定／不定」

一般的に、定名詞句は、話し手が提示した対象が聞き手から同定できる（と話し手が想定する）指示対象を表し、それができなければ不定名詞句となる。先に（2）で示されたように、定名詞句はふつう次のような対象を表している。

- (8) a. 唯一の指示対象（個体または類）  
b. 現場または文脈によって同定される対象  
c. 既定対象（話題）に関連する要素（部分など）

(8a) は、主として固有名詞か類名詞によって表される対象であるが、その対象への同定は百科事典的知識に基づいている。(8b) は、話し手と聞き手が置かれた発話の状況や文脈によって決められている。(8c) は百科事典的知識と発話状況のどちらか、または両方によって決められる。上記の指示対象に共通して持つ性質は「唯一性」または「排他性」である。

東郷雄二（1999：1）によれば、談話モデル（discourse model）は話し手と聞き手の両方の側に、談話の進行に応じて構築される心的表象をさす。談話モデルには、導入された対象が登録され存在する心的領域として、「共有知識（shared knowledge）」「発話状況（context of use）」「言語文脈（linguistic context）」の三つを有している。「共有知識」は、談話以前に話し手と聞き手がともに所有してい

る世界についての百科事典的知識、及び談話の開始以前に話し手と聞き手が共有している知識領域であり、「発話状況」は、話し手と聞き手を含み、発話が行われている時空間と、その場に存在している実体をすべて含む。一方、「言語文脈」は、談話によってもたらされた談話の初期値である、とされている。

名詞句の指示対象について、東郷（1999：13-15）は、Fraurud（1996）の説を引用しながら、次の3タイプに分けている。

- (9) a. **Individuals.** 最も独立性の高い個体的存在。Who? Which one? の答えとなる。  
(典型例は、固有名詞)
- b. **Functionals** : 談話世界内の他の実体 (anchor) との関係においてのみ存在する。  
Whose? Of whom / which の答えとなる。  
(典型例は、定名詞句)
- c. **Instances** : 個体としてよりも所属するカテゴリーの一例としてのみ認識される。  
What? の答えとなる。  
(典型例は、不定名詞句)

そして、名詞句の指示対象への同定には、次のような知識が必要だとしている。

- (10) a. **Individuals** : token 知識 (ex. ナポレオン、夏目漱石)
- b. **Functionals** : type 知識 (relational) (ex. [私の] 従兄弟)
- c. **Instances** : type 知識 (sortal) (ex. 「これは何?」「チーズの一種です」)

東郷の説明を踏まえて考えれば、いわゆる名詞句の「定／不定」はあくまで相対的な概念で、例えば、(9a) は主として個体とされているが、実際、「恐竜」のような類の場合もある。また“美国总统”のように、個体と類をまたがっている場合もある。(9b) に関する判断は「他の実体」との関連で行われるが、仮に指示対象への同定が排他的な意味で成功したとしても、対象への認知はどこまで確立したか曖昧な場合もある。また (9c) のような個体への同定ができなくても、その指示対象が特定された類に含まれる一個体、または特定された複数個体（グループ）に含まれる一個体として認知される場合もあるなど、さまざまな状況が考えられる。

一方、「定／不定」とは別に、「特定／非特定」の区分も重要な役割を果たしている。次の中国語例で示されたように、類か個か、特定か非特定かなどによって分析が異なってくる場合がある。

- (11) a. 今天有 (一个) 人找你。 = [不定+特定] 個体  
／さっき、ある人があなたを尋ねにきた。
- b. 今天有 (\*一个) 人找你吗? = ? [不定+非特定] 個体  
／今日、あなたを尋ねに来た人がいるか。

従来の研究では、(11a) の“有人”は不定名詞句で特定個体を表し、(11b) の“有人”は不定名詞句で任意個体を表すとしている。しかし、(11a) の“有人”を“有一个人”に置き換えられ、特定個体として認められるが、それに対して (11b) の“人”は“有一个人”に置き換えられず、個体を表し

ているかどうか疑問である。この場合の“人”は「任意個体」よりも、むしろ「類」を表し、つまり「あなたを訪ねに来た人」という集合概念を表していると考えられる。

従って、名詞句に関わる「類／個」、「定／不定」または「特定／非特定」などの判定は、文脈条件によって異なり、それに伴って構文の意味関係も変わってくるのである。

## 2.2. 類と個

中国語名詞句に「数」というカテゴリーを持たないので、英語などの類名詞複数形に対して、裸名詞で対応する場合が多い。裸名詞は述語の意味や文脈などによって指示対象が変わってくる。

- (12) a. 鯨魚是哺乳动物。／鯨は哺乳動物だ。
- b. 鯨魚很大。／鯨は大きい。
- c. 鯨魚死了。／鯨は死んだ。

(12a) “鯨魚”は類を表し、述語「哺乳動物（だ）」は内部構成素を無視して「類属」を表している。  
 (12b) の“大”は個体間に差を残しながらも類（個体集合）としての性質を表している。中国語では形容詞の前によく“很”をつけるのは類別と区別する意味合いが含まれているとも考えられる。  
 (12c) の“死了”は個体に属す事象の状態である。

劉丹青（2002：411-412）は、定不定はあくまで個体に適用する分類で、類に関しては必要ないと指摘している。この考え方は、主として英語などの欧米語の事情に基づいたものだと考えられる。英語では確かに類に関しては定不定を分けないのであるが、日本語と中国語ではもともと「冠詞」がないので、それゆえ定不定に関する発想も英語と異なっているはずである。もし、固有名詞は百科事典的知識に基づいて特定の個体を「定」と位置づけるのなら、類名詞も同様に百科事典的知識に基づいて特定の類を「定」と位置づけられると考えられる。

劉丹青によれば、中国語では、裸名詞が類を表すか個を表すかは、述語のタイプによって決められる。上記（12a）（12b）の述語は属性叙述（individual-level）を表すので、“鯨魚”は類を表すが、（12c）の述語は事象叙述（stage-level）を表すので“鯨魚”は個体を表すとしている。

すでに触れたように、（12a）の“鯨魚”は類として提示された概念で、その概念には内部構成素が含まれず、時空間的属性も伴わない。それに対して、（12c）の“鯨魚”は特定された時空間的要素を伴った個体である。一方、（12b）“鯨魚”は個体の集合を表している。その内部に複数個体が含まれるが、その文脈では類（総称的名詞句）として提示されている。

「定／不定」の立場から見れば、（12）の“鯨魚”はいずれも定である。（12a）（12b）は固有名詞と同様、百科事典的な知識によって指示対象（類）への同定が確立し、（12c）は発話状況など文脈によって特定個体への同定が確立している。

- (13) a. \*这条鯨魚是哺乳动物。／\*この鯨は哺乳動物だ。
- b. 这条鯨魚很大。／この鯨は大きい。
- c. 这条鯨魚死了。／この鯨は死んだ。

（13a）の“哺乳动物”は個体への説明に適用されないので不可である。（13b）の“很大”は個体の属

性を表し、“鯨魚”の類としての属性とは関係しない。(13c)の“死了”は偶発事象で“这条鯨魚”は事象の主体として機能している。

- (14) a. \*一只鯨魚是哺乳动物。／\*鯨の一頭は哺乳動物だ。  
 b. ?一条鯨魚很大。／?鯨の一頭は大きい  
 c. 一条鯨魚死了。／鯨の一頭が死んだ。

(14a)は(13a)と同様な理由で不可となる。(14b)“一条鯨魚”は任意個体としては不可であるが、特定個体なら可能である。(14c)“一条鯨魚”は不定名詞句でありながら、特定個体と解釈されることになる。

### 3. 実例分析

#### 3.1. 類と個の場合

丹羽哲也(2004: 1-9)は、日本語の名詞句が指示対象の「存在・非存在」を問題にする「存否の題目語」で働く場合、不定名詞句でも定名詞句同様に「は」を使うという現象を指摘している。

- (15) a. この近くに郵便局 {?は／が} あります。(そこで印紙を買ってください。)  
 b. 私の家に犬 {?は／が} います。(名前をポチといいます。)

- (16) a. この近くに、郵便局 {は／?が} ありませんか。  
 b. お宅に犬 {は／?が} いますか。

(15a)「郵便局」と(15b)「犬」は不定名詞句なので「は」は不可である。それに対して(16a)(16b)では「は」が成立する。丹羽によれば、存在の有無を問う場合は(15)を使うが、題目名詞句の指示対象が存在するか否かを問う場合は(16)となる、と説明している。

また、

- (17) ロビーに山田さん {は／が} いますか?  
 ーはい、山田さんはいますよ。  
 (18) ほら、ロビーに山田さん {?は／が} いますよ。

の場合も、同様な現象だと指摘している。

中国語にも類似した例が見られる。

- (19) a. 这附近有(一个)邮局。／この近くに郵便局が(一つ)ある。  
 b. 我家有(一只)狗。／我が家には犬が(一匹)いる。  
 (20) a. 这附近有(\*那个/\*一个)邮局吗?  
 ／この近くに(\*その/\*一つの)郵便局はあるか。  
 b. 你家有(\*那只/\*一只)狗吗?  
 ／お宅に(\*その/\*一匹の)犬はいるか。

(19)の“邮局／狗”は不定名詞句で、“一个NP”の形をとることもできるが、(20)の“邮局／狗”は“那个NP”と“一个NP”のいずれの形もとれない。



それは、(20) の「邮局／狗」は個体でなく、類を表すことに関係している。この場合の名詞句は概念主体を表し、いわゆる「「邮局／狗」の類いのモノ」という意味を表している。個ではないので指示詞や数量詞とも共起しないのである。

(21) a. 这附近有 (一个) 邮局。(那个邮局／它) 离这儿不远。

／この近くに郵便局が (一つ) ある。(その郵便局は) ここから遠くない。

b. 我家有 (一只) 狗。(这只狗／它) 叫小黑。

／我が家に犬が (一匹) いる。(その犬は) 名前はクロという。

(22) a. 这附近有邮局吗? (\*那个邮局…)

／この近くに郵便局があるか? (\*その郵便局は…)

b. 你家有狗吗? (\*这只狗…)

／お宅に犬はいるか。(その犬は…)

特定個体の場合は、(21) のように後続詞による照応ができるが、類の場合は (22) のように後続詞による照応ができない。

また、個の存否について、次のような質問もあり得る。

(23) a. 这附近是不是有 (一个) 邮局? ／この近くに郵便局が (一つ) あったよね。

b. 你家是不是有 (一只) 狗? ／お宅に犬が (一匹) いるのか。

(24) a. 请问, (那个) 邮局在哪儿? ／すみません。(その) 郵便局はどこですか。

b. 你家的狗在吗? ／お宅の犬は (家に) いるか。

(23a) は、話し手が何らかの根拠に基づき「この近くに郵便局がある」ことを知った上での質問で、(23b) も例えば鳴き声などを根拠にした質問である。この場合の「邮局／狗」はいずれも特定個体であるが、話し手と聞き手の間では同定されていないので、不定名詞句が使われているのである。それに対して、(24) は「邮局／狗」の存在がすでに話し手と聞き手の共有知識として確立し、その所在を尋ねる質問である。この場合の「邮局／狗」は「定＋特定」にあたる個体である。

(16) の日本語も同様に解釈できる、「郵便局／犬」は不定名詞句ではなく、類 (概念主体) を表しているので、定名詞句と同じように「は」が用いられる。また、(17) の場合は、概念主体としての「〈山田さん〉という人」なら「は」を使い、特定個体としての「山田さん」なら「が」を使うのである。一方、(18) は特定の個体としての「山田さん」でしかありえないので「が」を使うことになる。つまり、(17) の「山田さん」に「は」が使えたのは「山田さんという人」という属性の持ち主を尋ねるからである。聞き手が仮に個体としての「山田さん」を知らなくても、「山田さんという名前を持つ人」という概念に基づいて指示対象への同定が可能である。それに対して (18) の「山田さん」は特定個体として視覚的に捉えられているので、「が」しか用いられないのである。

日本語では、「雪は白い」と「雪が白い」の違いも同じように、前者の「雪 (は)」は類を表し、後者の「雪 (が)」は個を表している。前者は論理的な推論で目の前に雪がなくても語られるが、後者は多くの場合、個を目の当たりにして語られる。中国語では前者に対応するのは「雪是白的」という

類別判断で、後者には“雪很白”という個への性質描写である。

類は、百科事典的知識に基づいて指示対象を同定するので、先行文脈に示されなくても、話し手と聞き手の間で指示対象への同定が可能である。その場合の類は、内部構成素にあたる個体と結びつかないので、(7a) に示された固有名詞と同様な機能を果たしているのである。

### 3.2. “一个 NP” の場合

中国語では“一个 NP<sup>1</sup>”は不定名詞句の代表形態とされている。

“一个 NP”は基本的に不定を表すが、その不定はあくまで相対的なもので、前述したように、特定された類に属す一個体を提示する場合、個体としては不定であるが、類としては定であるので、“一个 NP”を「定である類にある不定個体」と定義することができる。

呂叔湘(1984)は“谁是张老三?”と“张老三是谁?”の違いについて問題提起したことがある。

- (25) a. 谁是张老三? = 1) 哪个人是张老三? 2) 张老三是怎么个人?  
b. 张老三是谁? = 张老三是怎么个人?

呂叔湘によれば、(25a) は二通りに解釈できるが、(25b) は一通りしかできない。

確かに、上記の“张老三”は文脈条件によって解釈が異なっている。例えば、現場指示で“张老三”を視覚的に捉えた場合、“张老三”は「代名詞」的な働きをし、“这个人(この人)”などの指示詞とはほぼ同じ働きをしている。一方、“张老三”は個体と結びつかず、聞き手にとっては「“张老三”という名前を持つ人」という概念で働く場合もある。文脈条件によって“谁”の意味が異なるので、それに対する回答も異なってくるのである。

#### (26) [現場指示]

- a. (这个) 张老三是谁 (= 什么人)?  
b. 是 (一个) 农民。

#### (27) [文脈指示]

- a. (你说的) “张老三” 是谁 (= 1) 哪个人、2) 什么人)?  
b. 是那个农民。  
c. 是一个农民 (?是农民)。

(26a) の“张老三”は目の前に立っている個体として確認されたので、質問は個体の属性へ向ける(この場合は“谁是张老三?”に置き換えられない)。回答としての(26b)の“农民”は類別を表し、“一个农民”は個体的属性を表している。

それに対して、(27a)は話題に出た“张老三”とは誰か知らない場合の質問である(この場合は“谁是张老三?”に置き換えられる)。回答としての(27b)はふつう現場にいる該当者を指しているが、(27c)は属性の特徴から該当者を示している。この場合の“一个 NP”は特定個体を表しているので、数量詞“一个”は不可欠である。(27a)の“张老三”は機能的に役割関数に相当しているの

<sup>1</sup> “一个 NP”を主語に用いる場合“有一个 NP”の形をとることもあるが、ここではまとめて“一个 NP”として扱う。

で、(27c) “一个农民” は (27b) の “那个农民” と同じく、属性ではなく「値」を表していると考えられる。

“一个NP” は、特定の個体集合に含まれる不定個体を表す場合もある。例えば、

(28) a. 我把班里的一个同学打伤了。／私はクラスメイトの一人をケガさせた。

b. 我看见一个小偷被警察抓走了。／私は（ある）泥棒が警察に捕らえられたのを見た。

(28a) の“(我们)班”は特定集合で、“一个同学”はその集合に属す不定個体である。この場合の“一个NP”は話し手と聞き手が同定できる特定グループの一個体なので、特定個体に準じて認知されている。同じように、(28b)は現場にある特定集合（視界にある人々）の一個体として“小偷”が特定化されている。従来の説明では、中国語の“把”の目的語、または被構文の主語は定名詞句を求めるとされているが、(28)で示されたように、特定集合に含まれた個体であれば、不定名詞句でも定名詞句に準じて扱われているのである。

丹羽 (2004: 6) によれば、日本語にも似たような例がある。

(29) a. ? 誰かは、道子のことが好きらしい。

b. 3年B組の誰かは、道子のことが好きらしい。

(30) a. ? 多くの社員たちは、5時になるとすぐ帰る。

b. 大安商事の多くの社員たちは、5時になるとすぐ帰る。

(29b) の「誰か」と (30a) の「多くの社員たち」は、特定集合「3年B組（の生徒たち）」と「大安商事（の社員たち）」の部分にあたるが、上位集合が定であれば、指示対象自体が不定でも対象の存在範囲が限定できれば、その属性や状況を説明することができる、と指摘している。

(29) (30) の不定名詞句は、いずれも特定個体を表している。話し手と聞き手にとってその指示対象はどの個体か正確に把握できなくてもその個体が属す集合が特定できれば、個体としての存在が確認されるので定名詞句として振る舞うことが可能だ、ということを表している。

認知言語学の考えでは、話題にある指示対象が定であれば、それに関わる付帯要素も定として解釈されることになる。例えば、飛行機に関する話題で指示対象の「飛行機」が定であれば、その飛行機に関わる機内設備や乗務員なども定として解釈されることになる。

(31) a. 坐上出租车后，我跟司机说去机场。

／タクシーに乗ったら運転手に空港へ行くと伝えた。

b. 坐上飞机后，我跟（一个）乘务员要了一杯饮料。

／飛行機に乗ったらすぐ（一人の）乗務員に飲み物を頼んだ。

(31a) の“司机”は話題範囲内にある唯一性を持つ要素で、ふつう定として解釈される。それに対して、(31b) の“乘务員”は常識では複数であるが、「飲み物を頼む」相手として、どの乗務員も同じ働きをする個体と見なされるので、同じ属性主体として“一个”を省略することも可能である。また“乘务員”は次のように“把”の目的語や被構文の主語にも用いられる。

(32) a. 坐上飞机后，我把（一个）乘务员叫来要了一杯饮料。

／飛行機に乗ったら乗務員を呼んで飲み物をもらった。

- b. 听说这家航空公司的（一个）乘务员被乘客打伤了。

／この航空会社の乗務員（の一人）が乗客に殴られて怪我したそうだ。

その場合の“（一个）NP”はいずれも特定個体を表している。また、

- (33) a. 他把谁打伤了？／彼は誰を怪我させたのか。

- b. 谁被他打伤了？／誰が彼に怪我されたのか。

“誰”は不定名詞句の典型であるが、(33)では両方とも成立する。その前提条件としては、話し手と聞き手が“他打伤了一个人（彼がある人を怪我させた）”という前提情報を共有し、質問は“他打伤的那个人”という関数（定名詞句）と値（誰）との一致関係を求めている。この場合の“誰”は、現場指示で目の前にある複数の人から一人を見つけ出すのと同じように、特定集合の一個体（特定個体）として機能しているのである。

その意味で、“把”の目的語、または被構文の主語の位置に任意個体を表す不定名詞句では不可であるが、特定個体を表す不定名詞句なら可である、と従来の説明を改めるべきである。

### 3.3.「飽和名詞」と「非飽和名詞」の場合

西山佑司（2003）では「カキ料理構文」に関わる、次の問題を取りあげている。

- (34) a. 紫式部が、源氏物語の作者だ。

- b. 源氏物語は、紫式部が作者だ。

- (35) a. 紫式部が平安時代の作家だ。

- b. ?平安時代は、紫式部が作家だ。

西山によれば、(34a)の「作者」は非飽和名詞なので文が成立するが、(35b)の「作家」は飽和名詞なので文が成立しないとしている。西山の「飽和名詞」とは、意味的に自足し、単独でその外延を確立させることができる名詞グループで、「非飽和名詞」とは非自足的で、その外延を確定するためには、他のパラメーター（parameter）を必要とする名詞グループである。

西山（2003：276）では、「YがXのZだ」という指定文において、「XのZ」のZが「非飽和名詞句」で、且つXはそのパラメーターである時に、はじめて「Xは、YがZだ」という「カキ料理構文」に置き換えることができると、指摘している。西山が提示した「非飽和名詞」は以下である。

- (36) a. 〈役 割〉：優勝者、敗者、委員長、司会者、上役、媒酌人、創立者（略）

- b. 〈職 位〉：社長、部長、課長、（副）院長、社員、調査役（略）

- c. 〈関係語〉：恋人、友達、先輩、後輩など

- d. 〈親族語〉：妹、母、叔父、息子、子どもなど

- e. 〈その他〉：タイトル、原因、結果、敵、癖、趣味、犯人、買い時、基盤（略）

（西山 2003：269）

西山の「非飽和名詞」は名詞の意味機能に基づく分類であるが、それだけでは問題が全部解決できないようである。

(37) a. この病院は、彼が院長だ。(非飽和名詞)

／这个医院，他是院长。

b. \*この病院は、彼が医者だ。(飽和名詞)

／\*这个医院，他是医生。

c. \*この病院は、彼が課長だ。(非飽和名詞)

／\*这个医院，他是科长。

(38) a. 彼女が私の後輩だ。

b. \*私は、彼女が後輩だ。

(37c)「課長」と(38b)「後輩」も非飽和名詞であるが、文が成立しない。一方、(37c)は「YがXのZだ(？彼がこの病院の課長だ)」としても成立しないが、(38b)は「YがXのZ(彼女が私の後輩だ)」では成立する意味関係である。

王亜新(2011)では「カキ料理構文」の成立条件として、「Z(だ)」は既知で排他的な名詞句である必要があると指摘している。つまり、(34)の「作者」は役割関数を表す定名詞句なのに対し、(35)の「作家」は類を表す属性叙述名詞句であるところに問題が起きているのである。定名詞句は、固有名詞か文脈によって特定対象を表し、唯一性または排他性を持っている。それに対して、属性名詞句は指示対象を表さず、類別または個体属性を表している。「作者」と「作家」は、定か不定か、また役割か類別かで異なっているので、(34b)と(35b)のような齟齬が生じたのである。

坂原茂(1990:43)では「カキ料理構文」について次のように分析している。

(39) カキ料理の本場は、広島だ。

$\alpha$  の Rは、 $v$ だ。

「カキ料理」は「変域( $\alpha$ )」で、「本場」は役割(R)、「広島」は「値( $v$ )」を表す。その中で、Rの外延は $\alpha$ によって確定され、Rの値は $v$ で埋めるという意味構造を持ち、そして、その意味構造を表す構文として、次の4種類のバリエーションが可能である、と指摘している。

(40) a.  $\alpha$ のRは、 $v$ だ(源氏物語の作者は、紫式部だ／源氏物語的作者是紫式部)

b.  $\alpha$ は、Rは $v$ だ(源氏物語は作者は、紫式部だ／源氏物語，作者是紫式部)

c.  $v$ が、 $\alpha$ のRだ(紫式部が、源氏物語の作者だ／紫式部是源氏物語的作者)

d.  $\alpha$ は、 $v$ がRだ(源氏物語は、紫式部が作者だ／?源氏物語，紫式部是作者)

中で(40b)は極めて重要である。その構文では「R」が副題として成立できるのはRが定名詞句だからである。そして、その条件を満たしてはじめて(40d)のような「カキ料理構文」に置き換えられるのである。

中国語においては、(40d)のような構文形態ではどうしても座りがわるくなる。それは、焦点を表す「が」という格標識を持たない中国語では、述語部にある“是Z”をR(役割関数)と解釈せず、属性叙述と解釈されるからである。Zを役割関数として機能させるためには、(40a)の「主題」か、(40b)の「副題」の形で、Zが定名詞句であることを明示する必要がある。

次の例も同じである。

(41) a. 私は、土木工学が専門だ。

／\*我，土木工程学是专业。→ 我（的）专业是土木工程学

b. 太郎は、囲碁が趣味だ。

／\*太郎，围棋是爱好。→ 太郎（的）爱好是围棋。

c. 今回の旅は、長崎が終点だ。

／?这次旅行，长崎是终点。→ 这次旅行（的）终点是长崎。

(41c) の“这次旅行，长崎是终点”は成立しそうにも見えるが、意味が変わっている。むしろ、日本語の「今回の旅（で）は、長崎は終点だ」というように「終点」は属性を表しているのである。

西山（2003）では、「カキ料理構文」を広い意味での属性叙述文と説明しているが、(40b) で示されたように、このタイプの文は、広い意味での「倒置指定文」と見るべきである。

#### 4. おわりに

中国語名詞句の「定／不定」は文法形態から判断するのが難しいので、文脈に基づいてその機能を見分ける必要がある。「定／不定」のほかに、「特定（実指）／非特定（虚指）」も重要な役割を果たしている。通常、指示対象が特定個体か任意個体かの違いについて、文法レベルではなく、語用レベルで判断することになるが、中国語では、特定個体か任意個体かによっては構文形態が異なってくる場合もある。

一方、「類／個体」の区別も重要である。特に「数」というカテゴリーを持たない中国語では、類と個の見分けが難しい。しかし、名詞句の意味機能を細かく観察すればその違いを見つけ出すことは可能である。

例えば、陳平（1987）では「无指」として下記の名詞句（下線部分）をあげているが、それについては、なお検討する余地があると考えられる。

(42) a. 複合語の構成素：鸡蛋糕、羊毛、方言调查、汽车配件……

b. 類別を表す述語（表語）：雍士杰是一名菜农，今年五十多岁。

c. 比較対象か基準：他目瞪口呆，像一根木头棒子楔在原地，一动不动。

d. 否定構造において否定される対象：我这些天来没买书，口袋里没钱。

e. 動賓フレーズにおける名詞句：读书，吵架、打牌、捕鱼、抽烟……

その中で (42a) は語彙レベルの構成素で“无指”でよいが、(42b) は文脈に応じて「属性叙述（无指）」と個体のいずれかを表す。そして (42c) は任意個体で、(42d) (42e) は類を表している。概念主体は内部構成素を無視した類概念を表しているのので、属性名詞句と違って指示対象を表している。

陳平（1987：87）に従えば、

(43) A：书读完了吗？ B：读完了。（陳平 1987：87 の用例）

／A：本 [は／を] 読んだか。 B：読んだ。

(44) 读书是一个好习惯。／本を読むのがよい習慣だ。

(43) の“书”は“有指”で、(44) の“书”は“无指”となるが、名詞句の類と個の違いからみれば、(43) の“书”は事象叙述における〔定＋特定〕個体であり、(44) の“书”は類を表す定名詞句である。後者の“书”は“书店”のような構成素としての“书”とは異なり、指示対象としての類を表しているのである。

## 主要参考文献

Carlson, Gregory N. 1977. *Reference to Kinds in English*. Ph.D. dissertation, University of Massachusetts.

吕 叔湘 (1984) 〈谁是张三? = 张三是谁?〉《中国语文》第四期

Fauconnier, G. 1985, *Mental Spaces*, MIT Press (日本語訳『メンタル・スペース—自然言語理解の認知インターフェース』1987, 白水社)

陈 平 (1987) 〈释汉语中与名词性成分相关的四组概念〉, 《中国语文》第2期

坂原 茂 (1990) 「役割, ガ・ハ, ウナギ文」『認知言語学の発展・第3巻』講談社

庵 功雄 (1994) 「定性に関する一考察: 定情報という概念について」『現代日本語研究』1巻, 40-56.

東郷雄二 (1999) 「談話モデルと指示—談話における指示対象の確立と同定をめぐる一」『京都大学総合人間学部紀要』第6巻, 35-46.

刘 丹青 (2002) 〈汉语类指成分的语义属性和句法属性〉, 《中国语文》第5期

西山佑司 (2003) 『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句』ひつじ書房

金水 敏・田窪行則 (2004) 「談話管理理論からみた日本語の指示詞」『日本語研究資料集・第1期第7巻・指示詞』ひつじ書房, 123-149

丹羽哲也 (2004) 「名詞句の定・不定と『存否の題目語』」, 日本語学会『国語学』第22巻2号

吉田光演 (2004) 「総称文における日本語名詞句の種指示について」『言語文化研究・30』広島大学総合科学部, 25-55.

王 亚新 (2012) 〈判断句“是(一)个NP”的语义功能及句式特征〉, 『現代中国語研究』第14期, 朝日出版社

## 【Abstract】

The Function of Definite or Indefinite of Noun Phrase  
in Chinese Language  
—A Contrastive Study with Japanese Language

WANG Yaxin\*

The purpose of this paper is to analyze the functions of definite and indefinite noun phrases in the Chinese language, compared to those present in the Japanese language. A comparison is necessary because there is no recognized category of articles in the Chinese language, and how to distinguish the definite and the indefinite is an important subject for noun phrase research. This paper utilizes sample sentences to analyze the differences of “definite or indefinite” and “specific or non-specific” noun phrases, and offer new descriptions for the functions of semantic and syntax in noun phrases in the Chinese language.

**Key words** : noun phrase, definite and indefinite, specific and non-specific, role and value, type and individual.

中国語の名詞句に「冠詞」というカテゴリーを持たないので、「定／不定」がどのように表されるかは名詞句研究の課題の一つとなっている。本稿は、先行研究を踏まえて名詞句の意味機能を整理しながら名詞句の「定／不定」および「特定／非特定」が構文の意味関係にどのような影響をあたえるか、実例を通じて分析してみた。また、先行研究の問題点を指摘し、名詞句の意味機能について新しい解釈を試みた。

キーワード：名詞句、定／不定、特定／非特定、役割／値、類／個

---

\* A professor in the Faculty of Sociology, and a research fellow of the Institute of Human Sciences at Toyo University